

幹

表現活動の実践

● 思考の場・表現の場 — 時間と場を確保すること —

授業のなかで、思考し表現する時間を設けること。特に、推敲等においては、時間をかけて吟味して  
いくことが、よりよい文章表現につながります。

● 継続は力 — 毎日少しずつ書くこと —

表現する機会を日常化することにより、書くことへの抵抗が薄れ、自信が生まれます。  
思考力・表現力は、書くという行為のくり返しにより確実に伸びていきます。

風と陽ざし

表現を支えるもの

● 多様性を認め合つ — 雰囲気醸成 —

それぞれが持つ表現のよさを認め合うこと。生徒同士の発表に際して、温かい雰囲気を受け入れるこ  
とが必要です。

● 評価の場の設定 — ほめること・励ますこと —

生徒の表現について、適切な評価を与えること。その際、自己評価、相互評価、形成的な評価等をバ  
ランスよく用い、生徒のよさを認めていくことが大切です。

